

中期経営計画（2017～2021）の概要

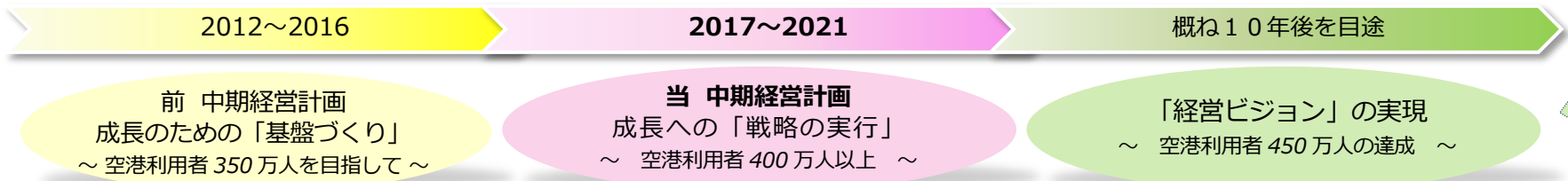
1 経営理念等

《経営理念》

私たちは、広島空港への強い愛情と絶えざる創意工夫を通じて、全ての利用者・関係者から最高の満足度評価を頂ける空港を実現し、地域社会・地域経済の発展に貢献します

《経営ビジョン》

- ① 空港民営化時代をリードする「顧客満足度ナンバーワン空港」となること
- ② 観光立国を支える 名実ともに「中四国地方の中核空港」となること
- ③ 一体運営の中軸を担う「空港経営プロフェッショナル企業」となること



2 前計画の振り返り

【空港利用者】

☆ 計画比 94%にとどまるも、5 年間で 121%の増加 (単位:千人)

| 区分 | 2011 実績 | 2016 計画 | 2016 実績 | 実績比 | 計画比 |
|-------|---------|---------|---------|------|------|
| 航空旅客 | 2,556 | 2,991 | 2,885 | 113% | 96% |
| 国内線 | 2,194 | 2,521 | 2,571 | 117% | 102% |
| 国際線 | 362 | 470 | 314 | 87% | 67% |
| 一般利用者 | 150 | 500 | 401 | 267% | 80% |
| 計 | 2,706 | 3,491 | 3,286 | 121% | 94% |

【経営数値（連結）】

☆ 利益は計画未達も、必要な施策・投資を実行しつつ健全経営を確保。ホテルは債務超過を解消 (単位:百万円)

| 区分 | 2011 実績 | 2016 計画 | 2016 実績 | 実績比等 | 計画比等 |
|--------|---------|---------|---------|-------|-------|
| 売上高 | 2,951 | 3,451 | 3,345 | 113% | 97% |
| 営業利益 | 389 | 595 | 437 | 112% | 73% |
| 当期純利益 | 227 | 351 | 277 | 122% | 79% |
| 営業利益率 | 13.2% | 17.2% | 13.1% | △0.1P | △4.1P |
| EBITDA | 886 | 1,224 | 1,035 | 117% | 85% |

【主要施策の成果】

| | |
|---------|------------------------------|
| APS の強化 | 中国地方初の LCC 就航, FDA チャーター就航 等 |
| アクセスの改善 | 白市連絡バスの増便, レンタカー利便性の向上 等 |
| CS の向上 | 定期的 CS 調査の実施と 調査結果の施策への反映 等 |
| 賑わいの創出 | 一般利用者の増と イベント開催ノウハウの蓄積 等 |

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 直営販売の強化 | 国内直営店の新設等により過去最高 6 億円売上を達成 等 |
| テナント売上最大化 | 薬店の導入や, テナントと連携した販促活動の展開 等 |
| ホテル経営再建 | 5 か年中 4 か年において黒字決算, 債務超過の解消 等 |
| ガバナンスの強化 | 取締役会の改革, 月次決算など PDCA サイクルの定着 等 |

3 経営環境と 当社の対応

変化の潮目を迎えた世界の政治・経済情勢と問われる日本の対応

- ◇ 訪日客の増加や LCC の台頭など「航空需要の変化」
- ◇ 低迷する地方空港間の競争激化など「空港業界の競争条件の変化」
- ◇ 当空港をはじめ近隣空港における「空港経営改革の進展」

不透明な外部環境への臨機応変な対応

需要構造の変化に対する主体的で迅速な対応

マネジメント能力・業務遂行能力の質的向上

4 基本方針及び主要な経営目標

《基本方針》

- ☆ 利用者拡大に全力を傾注
- ☆ 健全経営を維持しつつ中核空港としての基盤投資を着実に実行
- ☆ 一体運営時代の空港経営を担うに相応しい企業体質及びマネジメント体制を確立

《主要 経営目標》

| 区分 | 2016 実績 | 2021 計画 | 差異 | 比率 |
|-------------|---------|---------|--------|------|
| 空港利用者 | 3,286 | 4,104 | 818 | 125% |
| 航空旅客 | 2,885 | 3,514 | 629 | 122% |
| 一般利用者 | 401 | 590 | 189 | 147% |
| 売上高 (連結) | 3,345 | 4,148 | 803 | 124% |
| 営業利益 | 437 | 504 | 67 | 115% |
| 当期純利益 | 277 | 304 | 27 | 110% |
| 営業利益率 | 13.1% | 12.1% | △1.0P | — |
| EBITDA | 1,035 | 1,242 | 207 | 120% |
| CS 評価 (空ビル) | 3.48 P | 3.80 P | 0.32 P | — |

5 主要な戦略施策

① 航空・アクセスネットワークの抜本的拡充

- ▶ ローカル to ローカル路線の誘致や, 新規路線の受入環境の整備などによる「航空ネットワークの拡充」
- ▶ 小型航空機による新規ビジネスの促進
- ▶ リムジンバスのシャトル便化や, 料金低廉化に向けた検討など「アクセスネットワークの拡充」

② ターミナルビルの機能・価値の向上

- ▶ 搭乗待合室 (国内・国際) の拡張と待合室内への E V の設置などによる「顧客満足度の向上」
- ▶ 広島空港 HP の運営受託や, 新しい見学施設の整備による「広島らしさ・楽しさの演出」
- ▶ レストランゾーンのリニューアルや, 到着免税店の開設など「売上最大化」
- ▶ 国際線保安検査場の拡張や, インライン保安検査機の導入など「安全・安心の追求」

③ 企業体質及びマネジメント体制の質的レベルアップ

- ▶ PDCA サイクルの迅速化や, 子会社管理体制の強化など「経営管理のレベルアップ」
- ▶ ICT や施設管理の専門職など「必要な人材の確保・育成」
- ▶ ワークライフバランスのとれた勤務形態・職場環境の構築など「働き方改革の推進」

④ エアポートホテルの経営の安定と成長

- ▶ 強固なマネジメントチームの形成により, 体制強化と人材育成を図り, 業界トップレベルのパフォーマンス (GOP20%以上への挑戦) を目指す「宿泊部門」イールドマネジメントの更なるレベルアップと顧客管理の徹底
- ▶ 「宴会部門」非日常的環境を活用した会議・セミナー等の取組み
- ▶ 「婚礼部門」市場の変化に対応した商品開発とスタッフのスキルアップ
- ▶ 「料飲部門」リニューアルを梃子とした売上増とリピート客の確保

6 投資計画

中四国地方の中核空港としての基盤構築のため, 前中計 (24 億円) に比べ倍増となる合計 52 億円の大規模投資を実行

→ 大屋根改修など「ターミナルビルの基本機能の維持等」に 22 億円, 搭乗待合室の拡張など「戦略施策の実行」に 30 億円を投資